



京都市緑のボランティアセンターより、緑のボランティア活動や地域での活動に役立てていただくため、市内各所の活動実例や緑に関する情報を御紹介します。

## 街路樹サポーターの活動紹介 —— 東レコーテックス株式会社

東レコーテックス株式会社は、平成22年から街路樹サポーターとして活動されています。現在は本社（南区吉祥院落合町）と化成品工場（南区吉祥院新田式ノ段町）の2つの事業所の近くで清掃活動に取り組まれています。

取材日は、本社での清掃活動に同行させていただくとともに、活動のきっかけや活動を長続きさせる秘訣について、柊（ひいらぎ）康子会長に伺いました。

毎月第1月曜日の朝に十条通の街路樹帯で清掃活動を行っています。活動を始められたきっかけについて、「向かいのバス停や付近の道路に捨てられたごみが目立っており、企業による社会貢献としても、道路をきれいにしたいという初代の会長の提案で始まりました」とのことです。

14年間にわたって活動し続けられていることについて、「無理のない範囲で活動することを心がけており、雨天や酷暑のときは中止します。清掃活動は、道路がきれいになったという結果が一目で分かりやすく、評価しやすいことも長続きのポイントではないかと思います」とお話しされました。

活動は、毎回社内の各部署から数人ずつ参加してもらう方式をとっており、取材日はおよそ30名が活動しました。柊会長によると、「普段

の仕事では関わりの少ない他部署同士の気軽に話せるコミュニケーションの場になっています」とのこと。活動を始めた当初は一部の社員で行っていましたが、今ではなんと全職員約200人が街路樹サポーターとなり、清掃活動に関わっています。また、ここ数年で、犬の散歩中や通勤中にごみを拾ってくれている人の姿も見かけられるようになったそうで、「活動を始めた当初に比べて拾い集めるごみの量が減ってきました。ごみ拾いのきっかけが私たちの活動であれば嬉しいです」とお話しされました。



▲清掃活動を終えて本社の看板前にて。



▲取材当日は街路樹のユリノキの落ち葉が道路に落ちていましたが、あっという間に片付けました。清掃する皆さんのきびきびとした動きが印象的でした。



## 公園愛護協力会の活動紹介 ―― 新京極公園愛護協力会

新京極公園は、阪急京都河原町駅近くの繁華街にある街区公園です。日々の清掃活動のほか、京都市の「Park-UP事業<sup>(※)</sup>」を利用し、『つながる公園』をコンセプトに、公園を起点としたにぎわいづくりや防災などの地域の課題解決に向けた活動を進めています。今回は小出浩孝会長に、活動や将来の展望について伺いました。

新京極公園愛護協力会の現在の会員は5名ですが、活動日には地域の方を含めた十数名が参加しています。定例の活動日は定めず月に数回、多い月で3回活動をされています。



▲地域のシンボル、公園に面した錦天満宮の裏門前にて。

小出会長は約4年前に公園愛護協力会の会長を引き継ぎました。当時、新京極公園を含む地域において新たな活動を実施するために公園愛護協力会や町内会、商店街など各所を奔走していた小出会長が、当時の公園愛護協力会の会長宅を訪ねられたところ、会長になることを勧められ、役割を引き継ぐこととしたそうです。



▲清掃活動の様子、ごみ拾いや除草、生垣の刈り込みも行います。

新京極公園では、令和2年度から「Park-UP事業」の前身である「公民連携 公園利活用トライアル事業」に参加しています。そのきっかけについて小出会長から「公園での活動の件で各所を回ったとき、皆さんが私の話を真剣に聞いてくれて、公園での活動の認可を受けられました。そのときにお世話になった方々のためになることをしようと考え、参加しました」と教えていただきました。

そして、現在、新京極公園愛護協力会は、「Park-UP事業」を推進していくため、『つながる公園』をコンセプトに、公園において定期的に防災訓練を行ったり、公園の隣にある錦天満宮の春と秋の大祭に合わせて「錦の天神さんまつり」を開催したり、地域のつながりを広げていくために積極的に活動されています。小出会長は、「地域の防災対策は自治会で避けては通れない課題です。防災をきっかけに、さらにつながりが広まればと考えています。そして新京極公園を起点に地域内外を問わず、つながるきっかけをつくっていきます」と、今後の活動を担ってくれる方々のことも見据えながらお話をしてくださいました。



▲縁石の隅にたまる土に生えた雑草は角スコで撃退。



※京都市が令和6年2月に創設。地域主体の柔軟な管理運営を民間企業等の多様なサポート団体が支援することにより、公園の魅力向上を目指すとともに、地域コミュニティの活性化など、地域の課題解決や価値向上に寄与することを目的としている。

(詳細はニュースター「令和6年6月号」で御紹介しています。)



## 令和6年 秋の褒章(緑綬褒章)を京都みどりクラブが受章しました！！

緑綬褒章は「長年にわたり社会に奉仕する活動(ボランティア活動)」に従事し、顕著な実績を挙げた方へ授与される褒章」です。このたび、京都市内のみどりの活動団体として、「京都みどりクラブ」が受章されました。

京都みどりクラブは、平成13年9月に発足し、現在は40名で活動されています。

主な活動は、梅小路公園内にある「すざくゆめ広場」の花壇で毎週火、水、土曜日の午前中に行っており、除草や清掃、草花の育成管理をされています。

さらに花壇の植物を材料にしたミニ生け花づくりの体験コーナー、手作りのおし花やドライフラワーを使ったクラフトコーナーを提供したり、梅小路公園で



▲梅小路公園のグリーンフェアで、花を使ったコーナーを出店



▲梅小路公園内「すざくゆめ広場」にある花壇での作業の様子。四季の草花が植えられ、一年を通して緑がたえることがありません。

受章の伝達式及び拝謁は東京で11月13日に行われました。谷 久美子代表は、「初代の代表が会を立ち上げてから23年になります。会員をはじめ今まで関わってくださった皆様のおかげでこれまでの活動が認められて嬉しいです」と話され、「これを励みに花や人との触れ合いをより一層大切にしていきたい。これからも会員のアイデアを活動に生かしていきたいと思います」と、今後の抱負を話されています。

春・秋にみどりに関わる団体を一同に集めて開催される「梅小路公園グリーンフェア」等での緑化普及啓発活動にも取り組んでおられます。また、御池通スポンサー花壇のお手入れにも参加されています。

障害のある人もない人も自然に共に暮らしていこうという、ノーマライゼーションの理念を持ち、花の持つ「癒し」と「人のふれあい」を大切にされており、梅小路公園近隣学区の障がい者施設や福祉施設等の植物を使ったワークショップや協働での園芸作業を行っておられ、長年にわたり、幅広い活動で地域に貢献されてきました。



▲花壇での植え替え作業の様子



## 公園愛護協力会 街路樹サポーター

## 「未来の京都まちづくり推進表彰」受賞団体の御紹介

京都市では、安心・安全で持続可能な都市の発展を支える道と公園・緑の創造の推進に貢献し、特に他の模範と認められる団体を、京都市自治記念式典において表彰しております。

今年度は、以下の街路樹サポーター4団体と  
公園愛護協力会14団体が受賞されました

### 街路樹サポーター

上長者町通会	上京区	gomacro Salon	中京区
東本塩竈町	下京区	社会福祉法人志心福祉会 はなぶさ保育園	伏見区

### 公園愛護協力会

上柏野公園	北区	西野公園	山科区	樫原公園	西京区
睦公園	上京区	西新屋敷公園	下京区	新林池公園	
高岸南公園	左京区	西政所公園	南区	生津公園	
姉坊城公園	中京区	追分公園	右京区	南明公園	伏見区
清水坂公園	東山区			御霊ヶ下公園	

## 第37回 京都まちとみどり写真コンクール「京都市長賞」入賞作品の御紹介



「せせらぎの音を聞きながら」  
(撮影地:知恩院古門前白川沿い)

「京都まちとみどり写真コンクール」は、京都府民にまちなかの緑化に関心を持ってもらい、みどり豊かなまちづくりを推進するため、京都府都市計画協会が昭和60年から毎年10月の都市緑化月間<sup>(※)</sup>に合わせて開催している写真コンクールです。

「まちの水と緑」、「まちの緑と公園」、「緑とのふれあい」など、都市緑化をテーマとした写真作品の募集が行われ、37回目となった今回は、64名から90点の応募がありました。そのうち12点が入賞しました。

入賞作品のうち、「京都市長賞」を、中納寿美子様の「せせらぎの音を聞きながら」が受賞しました。

※都市緑化月間とは…「ひろげよう 育てよう みどりの都市」をテーマに、国土交通省、都道府県、市町村では、地域住民の緑化意識の高揚を図るため、毎年10月を「都市緑化月間」と定め、都市の緑化及び都市公園等の整備の推進に関する様々な活動を実施しています。京都市役所の分庁舎では、京都市が行っている緑化事業の取組みの紹介や市内各地で保全されている京都市産野生種フジバカマの展示を行いました。



▲京都市役所分庁舎での展示の様子

### 京都市緑のボランティアセンター

お気軽に  
ご相談  
ください

電話:075-352-2535(梅小路公園内専用回線)

場所:梅小路公園緑の館 2 階ロビー(京都市下京区観喜寺町56-3)

時間:午前 9 時～午後 5 時まで 月曜日を除く毎日(年末年始12月28日～1月4日休み)